1　学校経営管理全体計画（令和4年度構想）

下阪小コミュニティーの大目標(学校･地域･家庭)

コロナ禍でも、地域･家庭と共に自立した子どもを育成する

～自分大好き　友達大好き　しもさか大好き～

学校の使命(目指す学校像)

歴史と伝統を継承しなければならない**地域**に対して、相互方向の参画をすることで地域との協働･活性化の拠点的な役割を果たす

共に子どもを育てるパートナーとしての**家庭**に対して、情報交流･共有し合うことで、揺るぎない子育てができるよう支援する役割を果たす。

未来を担う子どもたちを育成する**教師**に対して、専門性を生かせる場を提供することで、自ら意欲的に向上し，やりがいを持たせられる居場所としての役割を果たす。

学校教育目標(目指す子ども像)

きたえ　助け合い　学び続ける　子ども

自尊感情(自己肯定感)を高める
↓
自分自身を信頼し自信を持つ(自立)
↓
自らきたえ助け合える豊かで強い心

教師の姿勢(目指す教師像)

〈チーム下阪本〉

○個を生かし　成長を支援し　子どもに力をつける
○専門性を生かし　学び合い　本気で学力定着・向上に向かう
○地域や保護者の信頼と期待に応え効果をあげる

外部(地域)の環境

◇学区の抱える課題解決のために、新たに「下阪本まちづくり協議会」が設立され、焦点を絞って地域の活性化に向けて懸命。
◇世代間のギャップと共に、新しい地域は価値観の違いが大きく連帯感も不足傾向。地域とのつきあいやコミュニケーションも少なく孤立感もある。
◇旧の地域は伝統と格式を重んじ、地域の連帯感も強いが、高年齢化が進みつつある。

内部(児童･教職員)環境

◇素朴で素直な子どもらしさが見られ、明確な指示やはっきりした目標があるとよく努力できる。ほめられ感･やりとげた感を感じており、自尊心が育ってきている。
◇多忙感を感じつつもやりがいを感じており、得意や専門性を生かして、熱心に教育活動に向かう教職員の姿が見られる。若手教員が増える中、世代間の相互作用が必要。働き方改革という側面からは依然として改善の余地がある。

重点事項

地域連携＜CS＞

◇開かれた学校の実現に向けて、地域の自然、人、文化と触れ合う機会をもつ中で、地域との協働実践を具体的に充実させ、特色ある学校づくりをさらに推進する。
◇地域(各種団体やまち協)との交流を進め、児童の活動の連携を図る。
◇安全確保の体制整備と学習支援の充実（防災、スクールガードや図書、情報等）

人間力・学力向上

◇自ら前向きに判断し、自他に対して適切な行動のできる子ども（自立した子ども）を育てる。
◇基本的な生活習慣の定着を図ると共に、挨拶、掃除、公共マナーの順守など、「人としてあたり前のことを自発的に且つ黙々とできる子ども」を育成する。
◇全教職員で学力向上に向けた取組を進める（授業改善、教科担任制、家庭学習充実、学習規律の統一）。

教師力

◇教職員一人ひとりが教育者としての使命と責任を自覚し、自らの人間性や専門性を高め、教師力の向上に努めるとともに、学校の組織的な教育力の向上を図る。
◇本校の学力傾向と新学習指導要領の趣旨をもとに授業改善を推進する。
◇インクルーシブ教育の視点を持ち、組織的・計画的・継続的な特別支援教育を実施する。
◇一人ひとりの児童としっかり向き合うための働き方改革に向けて抜本的な取組を行う。

経営の重点

◇地域、保護者との連携を常に意識し、積極的に地域、保護者の力を教育活動に取り入れる場面を模索する。
◇重点を明確にするとともにしっかり共通理解、共通実践することによる一点突破･全面展開。

下阪本小の特色（強み）

◇「チーム下阪本」としてのＯＪＴ機能を最大限に生かし、教職員の資質向上･人材育成に繋がっている。
◇全校的に落ち着いた集団として育ってきている。
◇児童の自尊感情が育ってきていることで、志を高く持つ言動も見られる。

方策（具体的教育活動）

地域連携＜CS＞

◇コミュニティ・スクールを核に、教務主任とCS推進員が連携し、具体的に学校と地域との橋渡しをする。（人権学習や歴史学習、防災教育など、まち協や各団体の活動と教育活動のリンク）
◇合同避難訓練や避難所体験、炊き出し体験、学区探訪など、夢プロジェクトとまち協との連携を進め、防災・町探検を中心とした取組を充実させる。

人間力・学力向上

◇自尊感情を育む視点で教育活動を進め、目指す子ども像への原動力とする。
◇防災教育(夢プロ)の推進による他者理解(人権意識)の充実。
◇GIGAスクール構想への対応と推進（タブレットの有効活用）。
◇授業で読む(読書)活動と書く活動を充実させるとともに、全教育活動で言語力の定着を図る（帯時間や委員会、俳句、百人一首や教育環境）。
◇幼児期、低学年時期に必要な感覚を養い、自ら伸びる素地を身につける。（保幼小連携）

教師力

◇OJTの組織的･計画的実施による資質向上･人材育成を目指す。
◇PDCAサイクルによる評価･改善や各部会の活性化により、学校の組織的な教育力を高める。
◇高学年を中心とした教科担任制をすすめ、より専門性を発揮することで、全児童（下位･中位･上位）の伸びを保障する授業改善の徹底。
◇特別支援教育の視点を学び生かすことで、児童理解を深めるとともに、学年経営や日課の見直しを行い、児童と向き合う時間を確保して一人ひとりに寄り添う。

目標達成の具体的な姿(成果のものさし)は『子どもの笑顔が輝く姿』

市教育振興基本計画、市学校経営の指針、県の指針･重点